

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2771602311		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	ケアポート大阪西吹田センターグループホームやすらぎ		
所在地	大阪府吹田市出口町17-33		
自己評価作成日	平成 22年 6月 30日	評価結果市町村受理日	平成 22年 10月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2771602311&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 7月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前には、市立図書館・総合福祉会館・保健所と公共施設があり、時には会館の喫茶に出掛けたり、又、近くには公園があり季節の花々、秋には紅葉と緑に包まれ散歩を楽しんでいます。又、事業所内のディサービスでの行事に参加させてもらったり、近況では入浴に際して、月1回の大浴場やリフト浴など使用して恵まれた中で日常生活を送っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

通信関連の公共事業に関わる法人が、地域への社会貢献を目的とした福祉サービス事業を行い、運営する2ユニットのグループホームで、開設して6年目を迎えています。ホーム周辺には、福祉総合会館・保健所・図書館・公園等があり、緑に囲まれた静かな地域です。職員は『なごやか、いきいき、ゆったり』とケアの目標を開設時に決めました。「家庭的なあたたかい雰囲気、みんなが主人公、役割を持って穏やかに毎日を楽しく、ゆっくり」をモットーに、利用者本位の生活に寄り添うサポートをしています。職員は『安全推進会議』を開設し、利用者の転倒防止等に日々配慮する工夫を検討しています。地域の理解と協力を得て「防火安全体制」について近隣住民に協力を要請し、協力者リストを作る等の安全体制を整えることができました。家族は運営推進会議にも複数の参加があり、毎月の「やすらぎ新聞」からも行事や暮らしぶりを知ることができ、信頼と安心を感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心して楽しく過ごせる我が家のような生活空間を作り出し『安心・安全・信頼』をモットーに真心とやさしさを持ってサービスを提供します」理念に挙げて、日々忘れることなくケアへ取り組んでいる。	法人としての理念はホームの各ユニット玄関の壁面に大きく掲示しています。グループホーム独自の22年度の運営方針として、①安全対策（転倒事故防止の努力）②活性化対策（日中の活性化）③医療（医療連携の強化）④効率化（現場第一を考えた間接的業務の効率化）を挙げています。スタッフの心得として「もし、自分が利用者様であれば」を常に想定しコミュニケーションの充実を図るよう心がけています。	法人の理念を実践するために、認知症ケアをより具体化し、職員はもとより利用者家族、地域住民にもわかりやすく、「利用者が地域の中でその人らしく、暮らし続けることを支えていくサービス」であることを理解してもらえよう、地域密着型サービスの意義もふまえた理念や運営方針を職員と再度、検討されてははいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所連絡会や夏祭りの参加等他施設、地域住民との交流も積極的に行っている。	地域の自治会・地域の介護事業所合同の夏祭りを近くの公園で開催します。職員は準備段階から、地域住民と協力して祭りを企画しています。当日、利用者は小遣いを持って、家族と共に参加し、地域住民との交流を図ります。ホームの向かいにある福祉会館内の喫茶店に出かけ、利用することにより地域の方とも交流が生まれます。週1回は介護支援サポーター2名の来訪があり、利用者と親交が育っています。デイサービスと合同でボランティアによる音楽演奏等を聴くこともあります。ホームの「防火安全体制」について、地域（総合福祉会館・障がい者作業所・近隣マンションの住民等）に協力を依頼し、「救援駆け付け」を快く引き受けていただきました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	吹田市の地域の福祉委員会、民生委員さんの報告会等への参加し認知症についての理解、又地域の支援サポーターも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の運営推進会議を実施。利用者様の状況報告や意見交換、検討事項やその後の経過報告等を話し合いサービスの向上に向けて活かすようにしている。</p>	<p>会議には利用者家族・地域福祉委員・地域包括支援センター職員が参加し、2カ月に1回開催しています。会議では①22年度の行事予定②安全推進会議③防火安全体制の近隣の協力者リスト等について報告・説明を行っています。「転倒防止対策」について家族の理解を得て、提案・意見を伺います。会議には、複数の利用者家族から参加があり、ホームの職員も可能な限り多数出席しています。</p>	<p>運営推進会議会則に「守秘義務」の項を加えることが望まれます。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>吹田市のグループホーム、特定施設と介護保険課職員との定例事業者部会に参加し、意見・情報の交換・相談等の話し合いに取り組んでいる。</p>	<p>市の担当課とは、ホーム内で発生した事故の報告書を提出により、対応等の助言を得て、ホーム内に「安全推進会議」を設置しました。市の担当課が主催する「地域密着型サービス事業所」の部会に参加し、情報交換を行っています。月2回介護相談員の来訪があり、利用者からの相談等に対応してもらいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は施錠になっており、利用者様が外出しそうな様子を察知したら一緒について行く等安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしている。身体拘束はしないケアの実施に努めている。</p>	<p>身体拘束についてのマニュアルを作成し、「身体拘束排除の方針」について職員には研修を実施し周知しています。各ユニットの玄関は常時施錠しており、タッチ式で開錠ができますが、一部の利用者のみ操作し、開錠していません。職員は利用者が外出したい様子を察知して同行し、気分転換を図れるよう配慮しています。なお、1階さつきユニットでは骨折入院した利用者が、退院後も行動症状が安定しないため、家族からの同意を得て、一時的に「つなぎ服」の着用を実施し、介護記録に状況を記載しています。状態の緩和により、現在は夜間のみ「つなぎ服」対応に改善しています。</p>	<p>身体拘束と安全確保の選択について、更に職員間で検討し、工夫することが望まれます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日々のケアで虐待となる可能性のあるケアについては職員で話し合いを行い虐待防止に努めている。 又高齢者虐待防止について研修会も実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会がなかった為、今年度の課題として学び、必要な利用者様へ活用できるように支援して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時、契約書・重要事項説明書を基に説明し不安や疑問について納得行くまで話し合い、納得を得た上で手続きを進めている。 締結改定等も同様に納得を得た上で手続きを進める。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート実施し、運営推進会議に結果報告、又全員の家族様へ送付。職員はミーティングにて改善へ向けて話し合っている。	家族の来訪時には、利用者の日常の様子を伝え、家族からも要望・意見を伺います。職員全員が利用者の生活状況を把握しており、誰でもがその都度家族と対応できることが、家族の安心につながっています。運営推進会議にも家族は交代で複数参加し、会議で要望・意見を伝える機会を得ています。ホームの運営に関するアンケートを実施して結果を報告し、運営に反映させています。随時意見を表わせるよう「意見箱」を設置していますが、直接意見や相談を聴いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や毎日の申し送りの中で、提案や意見を聞き報告し、反映させるように働きかける。	月1回フロア毎にスタッフ会議を開催しており、管理者は職員からの意見・要望を聴く機会を作っています。会議では、利用者の重度化による業務改善について話し合い、物品の補充時間や掃除・洗濯などのルール等も詳細に決めています。スタッフ会議以外でも「何かあれば話し合おう」を合言葉にして、管理者は日々の申し送り時やミニカンファレンス時に職員の意見を聴いて、職員の業務負担軽減だけでなく、効率的な業務運営に反映させています。職員は、運営推進会議にも多数参加し、地域や家族との連携の重要性を認識する機会になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や成果・実績については、スキルアップ賃金を導入し、やりがいなど向上心を持って業務が行える環境としている。労働条件に関しても、労働基準法を遵守し、働き甲斐のある職場環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の機会を設け実施し、スキルアップを図っている。日々のケアの中で困難に感じる事があつたら、その都度話し合い意見だしあつて技術や知識を身につけるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市の民生委員、福祉関係者、地域の同業者の連絡会、交流会に参加している。同業者との勉強会や見学を含めサービスの質の向上を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安、要望をしっかりと傾聴し、気持ちを受け止め安心して日常生活が送れるよう関係作りに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の困っていること、不安、要望等に耳を傾け理解し、家族様の気持ちを受け止め信頼関係を図っている。面会時は、現状報告を行い家族様の意見もしっかり受け止めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅や他施設からの初期対応でまず何を、ご本人、家族様が要望され必要なか見極めて方向性を決め他の行政サービス等の助言や情報も含めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学び生活を一緒にする家族と思い日々の家事（洗濯、掃除、調理）も楽しみながら喜怒哀楽を共にできる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日、敬老会、クリスマス等行事の時家族様へ食事会の参加を募り一緒に頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者様に限られているが、長きに渡って地域で交流のあった友人や遠くからの親戚の方が会いに来られる方等あり馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	入居以前からの美容院の利用を家族の支援により継続しています。散歩の途中に自宅に立ち寄り、近隣住民と挨拶を交わし馴染みの関係を継続しています。墓参りや法事にも出かけ、親戚との交流を保っています。ホームに訪ねてくる親戚の方や友人との交流も続けられるよう、雰囲気作りに配慮し、支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者様同士の関係を把握し共有の時間を楽しく話し合えるようにソファの席等を工夫し仲を取り持ち円滑に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等へ移り時、ご本人の状況、習慣、ケアの工夫等情報を詳しく伝えている。その後も面会等にて交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言動や表情から把握に努めている。意思疎通が困難な方については主にご家族様からの情報、日々の行動や観察に重視している。	入居時に利用者や家族から生活歴や思いを聞き取り、包括自立支援プログラムを活用したアセスメントシートに記載しています。入居後は利用者の毎日の生活を通じて得られた生活歴や意向をふまえた新たな気づきを申し送りノートや個別介護記録に記載しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談の際、今までのサービス利用状態を家族様から聞き取り、関係各所より情報を得てこれまでの経過の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族様から得た情報や日々関わっていく中で、できる事、できない事を見極めそれぞれの方の状態や真意を察しそれとなく確認するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族様の日頃の関わりの中からは思いや要望を聞き、反映させるようにしている。職員全員で意見を出し合い、アセスメントを含め、モニタリング、カンファレンスを行っている。3ヶ月に1度の頻度で介護計画の見直しをしている。	入居時および入居後の利用者について、利用者や家族の意見を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成し、家族の来訪時に説明し、同意の署名を得ています。計画作成担当者は、居室担当者やケアスタッフが記したカンファレンスノートや日々のケア計画実施表を参考にモニタリングを実施し、スタッフミーティング時にカンファレンスを行い、3ヵ月毎に計画の見直しを行います。また、必要に応じて、申し送り時等に時間を設けて、ミニカンファレンスを実施し、期間内でも利用者の変化に応じた介護計画書を作成しています。作成した介護計画は利用者一人ひとりのケア計画実施表にケアの目標を転載し、確認をすることにより職員に周知しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録を記入することはともより、朝・夕2回の申し送りでも日々のその日の状態や特に気になる点があれば伝達され、またスタッフノートに記録しケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大腿骨の骨折等により、通常シャワー浴しか実施できない方もいるので月に1回併設するディサービスの大浴場にてリフトを使い浴槽に入らせていただいている。レクの行事等もお誘いあり参加させてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には、福祉会館や図書館や公園があり、会館での車イス利用での体重測定や、バザーや地域の夏祭りに参加し楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月2回の定期的往診他ご家族様が希望する主治医の受診、通院は希望に応じて対応している。状態変化においては夜間でも主治医の往診可能であり、適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師の往診を月2回受けます。また、週1回は訪問看護師により体調管理を実施しています。入居以前からのかかりつけ医の受診を希望する場合は受診を支援していません。訪問看護師とはオンコール体制を採っており、夜間の緊急時対応も可能です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護師により個々の状態を見ていただき、身体異常が見られた時は、主治医への連絡や対処法の指示を受け適切な対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	特に入院先の相談員を通して入院中の経過をお聞きしたり、病状や退院後の対応等について、医師、看護師、ご家族様等と話し合いの場を設けて話し合い主治医へ報告し関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方についてご家族様にアンケートを実施。ホームで対応できる事について話し合っている。又、重度化に向けての基本的な方針を打ち出しターミナルケアについて職員研修実施主治医、訪問看護との協働によるターミナルケアに向けて地域医療と共に医療連携体制を整えて支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化や終末期にむけた対応について「看取りに関する指針」を示し、家族に説明しています。ホームで看取りの事例はありませんが、職員には「ターミナルケアの研修」を実施しています。入居後入院した場合や重度化した場合は、その都度かかりつけ医や看護師を交え相談し、ホームで対応できる支援方法を示して話し合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを整え職員の応急手当や対応の研修も行い、日頃から事件発生時の対応について話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連携を図りながら年2回訓練を実施、地域近隣の福祉会館及び住民の方への協力体制をお願いし支援体制の整備に取り組んでいます。災害時の備品等も用意できている。	非常災害時マニュアルを作成し、消防署と連携を図り、避難訓練を実施しています。運営推進会議では「防火安全体制」について説明しています。「夜間火災緊急体制」のマニュアルを定め、地域（近隣）の協力者に「救援駆け付け」の承諾を得ています。災害時の水や食品等を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権を尊重し、尊厳と権利を守りプライド、羞恥心を傷つけることがないように常に職員への声かけ、利用者様の対応には気をつけるように話し合い改善に努めている。	個人情報保護に関する取り組みは、研修や施設内に掲示し周知しています。利用者に対して援助が必要なときも、できるだけ本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めています。職員は、入社時に守秘義務に関する誓約書を交わしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を日頃より傾聴し、わかる方法で声かけや問いかけを行い出来るだけ自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活ペースにあった暮らしを一番大事に考え、起床、食事、入浴、レクリエーション、就寝等の時間は柔軟に希望にそった対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな服を着られる方や希望を聞いて着せてあげる。又家族様とお馴染みの美容院へ行かれたり、月1回地域の理容店の訪問により希望者のみカットしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の食事作りは利用者様と相談しながらメニューを決めるようにしている。職員と利用者様が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来るよう雰囲気作りも大切にしている。	管理栄養士が栄養バランスを考慮した献立の食材を外注しています。3食とも下ごしらえ、調理、味付け、盛り付けは利用者と共にいきます。利用者の嚥下状態に合わせて工夫をした食事を提供しています。職員は全員同じ物を食べながら利用者との会話を楽しみ、介助が必要な方には、さり気なく寄り添ってサポートしています。月に1回は利用者の希望するメニューを選び、食材購入から調理まですべて利用者と共にいきます。気候の良い時期にはお弁当箱に詰めて戸外での食事を楽しむこともあり、利用者は食事が進みます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量が少なく栄養があまり取れていない方には、栄養の補えるものを勧めている。水分もそのままでは、ムセてしまう方には、トロミをつけたり、ゼリーにして摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声かけや介助に行っている。月1回の居宅管理指導にて歯科衛生士により口腔ケア実施してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意のない利用者様にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	個別に排泄パターンを把握し、誘導が必要な方にはプライバシーを尊重した対応をしています。自立している方にもさり気なく見守りを行っています。排便状況は訪問看護師のチェックを受けます。夜間は安全を確保するため、ポータブルトイレを使用する場合があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操をしたり、水分補給をしたり、マッサージ、ホットパック対応をしたり歩ける利用者様の場合にはお散歩に出てみたりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ずつゆっくり入ってもらっている。入浴を嫌がられる利用者様は無理強いせず、時間開けて再度言葉かけや対応に心がけている。車イスの方が増えて来ており、少し個浴が難しくなって現在月1回併設するディサービスリフト浴実施中	入浴は、午後から2～3名ずつ入浴できるように支援しています。日常生活動作が重度化したため、二人介助が必要な利用者が入浴する際は、現状の個浴室では対応が困難なため、日常的にはシャワー浴で対応しています。月1回は、併設するディサービスのリフト浴を利用し、ゆっくり入浴をいただきます。月1回日曜日にディサービスの大浴槽を全員で利用します。日常的には午前中にリビングルームで足浴をして、フットケアをしています。	併設するディサービスのリフト浴の利用は、寒い時期には必要になると予想されるため、徐々に利用回数を増やすよう検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中の活性化に努め安眠して頂 けるようにしている。又、その日 の体調に合わせて休息してもら っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	間違いなく服薬出来ているか？ 必ずチェックしている。目的や、 副作用、用法については処方箋 にて確認し症状の変化時は主治 医の指示を仰ぎ、申し送りにて 周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	出来る範囲内で家事や手作業に 参加して頂いている。天気の良 い日には散歩に行ったり、近 くの喫茶店に行く事もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気やご希望によって買物や近くの公園へ散歩、ホーム前での外気浴等 又 年2回家族様へも参加呼びかけてお花見、秋の紅葉と楽しんでいる。	月に1回利用者と献立を考え、食材購入にも利用者と共に出かけます。気候の良い時期には近くの公園へ散歩にでかけたり、向かいの福祉会館の喫茶店に出かけたりしています。家族と共に医療機関への受診や美容院・墓参りに出かける機会もあります。季節の行事では、花見や紅葉狩りに家族も参加し、協力を得て出かけます。車椅子の使用が多くなり、毎日の散歩は難しくなっていますが、ホームの玄関から出て敷地内の草花の世話やベンチに座りくつろいで外気浴をします。	車いすの利用者が多くなったこと、自立歩行の方のサポートもマンツーマン対応が必要になり、日常的に散歩する機会が少なくなっていることに職員は気づいています。家族やボランティアに協力を呼びかけ、少ない時間でも散歩ボランティアを要請する等を検討されてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には預り金より必要に応じて買物へ行き職員の見守りにて支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様からの電話、ご本人から希望される電話はその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音、温度、光の調節の配慮廊下も広く（物を置かない工夫）取り、トイレや浴室への移動時、不安なく行けるように工夫している。季節の花を玄関やテーブルに飾り生活感を取り入れている。	玄関の棚には利用者が生けた季節の花が飾っており、壁面には利用者と共に手作りした季節を感じる貼り絵や大きなカレンダーを装飾しています。お誕生日会・行事の写真も貼っています。ソファや椅子がゆったりと置かれており、利用者は気に入った場所で自分の時間を過ごしたり、利用者同士会話を楽しんでいます。	今後は、家族やボランティアの来訪時に職員の名前がわかるように、「本日の勤務者名」を写真入で掲示する等、職員の名前と顔が一致するような工夫をされてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やフロアー食堂と数カ所、椅子やソファを置き、それぞれ好きな場所にて過ごせるように配置しており、利用者様もその日の気分で思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族様と相談し馴染みの物や写真、装飾品等思い出の物を持ち込み居心地良く過ごせるように工夫している。	入居時に使い慣れたベッドやタンス・仏壇や遺影・家族の写真・装飾品等、馴染みのある物を居室に持ち込み、安心して落ち着きのある生活を送れる空間になっています。居室の壁面には手作りの塗り絵や自筆の書を掲げており、職員手作りのお誕生日祝いの色紙には、利用者の正装した写真が貼っています。なお、2階ひまわりユニットでは居室の入り口に、利用者の好みの暖簾が掛かっていて、自室がわかりやすくなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室へは表札、写真、飾りや、トイレは表示し、通路も広く取り利用者様が混乱なく安全に生活が送れるように心がけている。危険なものは鍵のかかる場所に保管している。		